

令和6年9月19日

教育長 答 弁 実 録

（ 教 育 委 員 会 ）

（問）県教育委員会が目指す教育について

篠田教育長が目指す広島県の教育行政について、就任半年を経た現時点での所感と、児童・生徒、そして、教育現場の教職員に対し、今後に向けた決意を伺う。

（答）

私は、教育長として、4月に着任して以降、教職員との対話等を通じて、本県教育の現状と課題を把握した上で、

- ・ 全ての県立学校の約半数に当たる51校を訪問したほか、
- ・ 市町立学校や市町教育委員会を訪問し、

授業の観察や、関係者との意見交換を行い、教育現場の実情の把握に努めてまいりました。

学校現場を見た率直な感想といたしましては、

- ・ 児童生徒は意欲的に学んでおり、
- ・ 教員は、若い教師が増えている中、それぞれ熱心に創意工夫しながら指導を行っているなど、

学校現場に活気があると感じたところでございます。

一方で、一人1台端末の活用につきましては、効果的に活用して、主体的な学びと協働的な学びを実践できている教師がいるものの、十分に活用できていない場面も一定程度見られるなどの課題があるほか、不登校等児童生徒の支援につきましては、学びにアクセスできない児童生徒ゼロを目指す必要があることなど、様々な課題があると感じたところでございます。

このため、私は、全ての児童生徒の主体的な学びの実現に向けて、

- ・ 児童生徒の豊かな学びのための一人1台端末の効果的な活用の普及や、
- ・ 全ての児童生徒にとって、身近で落ち着いて学べる場所や、安心できる居場所づくり

をより一層進めるなど、一つ一つの課題に対して、現場を思い、丁寧に向き合いながら、取り組んでまいります。

また、教職員が、児童生徒の学びを最大限に引き出す役割を果たせるよう、学校の働き方改革を進めるとともに、日常的な気付きの共有を気兼ねなく行

い、児童生徒の可能性や能力の発達をチームとして支え合えるような学校づくりを支援してまいります。

県教育委員会といたしましては、全ての子供たちの健やかな成長のため、現場からの声に耳を傾けて、学校・地域のつながりを大切にし、関係する皆様と協働して、風通しの良い「教育県広島」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。